

日本地域経済学会 第33回福島大会:大会案内(第二報)

本年の大会は、昨年度に引き続きオンラインで行うことになりました。7月10日まで自由論題報告を募りました。企画セッション含め、応募多数であったため、当初お伝えしたスケジュールを一部変更しております。以下、大会プログラムを掲載いたします。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

会員の皆様は、以下の URL にアクセスして頂き、「参加フォーム」への参加意思の登録をお願いします（参加フォームについては学会公式 HP からアクセスは可能です）。大会参加を予定していない会員につきましても、是非とも総会の成立にご協力いただくために「参加フォーム」にアクセスしていただき、総会の「委任状を提出する」を選択していただくと思います（電子処理で委任状が提出される仕組みになっています）。大会3日前までに要旨集と Zoom 情報 (URL 等) を送付いたします。また自由論題報告と企画セッションは分科会形式にて、それぞれ同時に別々の会場で行いますが、時間内で移動するなど両方の参加も可能です。

【大会参加登録フォーム】

<https://forms.gle/1DCPnhJA7TvYTus87>

日程:2021年11月13日(土)~14日(日)

◇11月13日(土)

理事会 10:00~12:00

自由論題報告 13:30~17:00

◇11月14日(日)

企画セッション 9:30~11:30/45

共通論題シンポジウム 13:00~16:00

総会 16:00~17:00

大会実行委員長 初澤 敏生

福島大学 人間発達文化学類

〒960-1296 福島市金谷川1

TEL/FAX 024-548-8168

e-mail: hatsuzaw@educ.fukushima-u.ac.jp

【11月13日(土) 13:30~17:00】

自由論題分科会1,2 【Zoom会場 A】

*持ち時間40分

(報告時間20分+質疑15分+予備5分)

○自由論題分科会1「まちづくり」

座長 松永 桂子 (大阪市立大学)

第1報告 13:30~14:10

倪 卉 (島根大学法文学部山陰研究センター客員
研究員)

「シェアリングエコノミーの導入による地方の公共交通問題の改善と課題—北海道の事例—」

第2報告 14:10~14:50

藤岡 裕大 (関西大学大学院経済学研究科博士後期
課程)

「コンパクトシティと縮小都市に関する研究」

第3報告 14:50~15:30

濱本 賢二 (松山大学)・井草 剛 (松山大学)

「松山市における観光消費の経済効果と課題」

○自由論題分科会2「地域内経済循環」

座長 三輪 仁 (九州国際大学)

第4報告 15:40~16:20

藤本 晴久 (島根大学)・池島 祥文 (横浜国立大学)

「企業エコシステムを活用した地域経済波及経路の
検証」

第5報告 16:20~17:00

白石 智宙 (立教大学)

「地域内経済循環論と財政循環—試論—」

自由論題分科会3,4 【Zoom会場 B】

○自由論題分科会3「地域経済と中小企業」

座長 長山 宗広 (駒澤大学)

第1 報告 13:30~14:10

上野 敏寛 (京都大学)・並木 洲太朗 (京都大学)

「バイオメディカル産業と地域経済—京都・神戸の比較研究—」

第2 報告 14:10~14:50

吉原 元子 (山形大学)

「繊維産地における分業の再編成とその課題」

第3 報告 14:50~15:30

中島 章子 (駒澤大学〔非常勤〕)

「地域経済における小規模企業の存立条件」

○自由論題分科会4「地域産業政策」

座長 大貝 健二 (北海学園大学)

第4 報告 15:40~16:20

江成 穰 (松山大学)

「地域産業政策による内発的発展の主体形成—長野県飯田市の製造業支援政策を事例として—」

第5 報告 16:20~17:00

岡本 宗大 (立命館大学大学院)

「京都府北部・長田野工業団地にみる誘致企業の『定着』要因」

【11月14日(日) 9:30~11:30/45】

○企画セッション1 9:30~11:45 【Zoom会場A】

「新たな地域経済学の可能性とその模索」

座長 池島 祥文 (横浜国立大学)

2019年12月に開催された日本地域経済学会第31回大会@京都橘大学では、共通論題「地域経済学の回顧と展望」が歴代会長による報告をもとに行われ、地域経済学の誕生に関する時代背景やこれまでの地域経済学における関心、さらには、その理論的な潮流について検討されてきました。比較的新しい学問分野として位置付けられてきた地域経済学ではあるものの、30年ほどの研究蓄積が生まれ、いくつもの

研究テーマや理論、分析手法に関して、ある種の潮流と云う事項も学会内外で共有されてきたといえます。それらの成果を生み出してきた歴代会長らを含む世代からの交代も、いま、まさに進みつつあります。

この世代交代に伴い、地域経済学の特徴といえるような諸成果を引き継ぐにとどまらず、新しい世代の研究者は地域経済学の学問的発展を目指し、切磋琢磨することが期待されます。もしかすると、世代交代があるからこそ、従来の発想に縛られることなく、新しい地域経済学がみえてくるのかもしれない。

そこで、本企画セッションでは、地域経済学において検討すべきである研究動向や理論的な潮流、または、分析枠組み・手法について情報共有しつつ、今後の地域経済学の学問的発展にとっての指針を見出すことを目的としています。本セッションで何か明確な回答を得るというわけではなく、報告者・参加者含めて、地域経済学研究を進めるうえで、有益な視点や困難な課題を共有しながら、「次世代の研究テーマ」を検討できる場として設定しています。さあ、みなさんも一緒に考えていきましょう。

第1 報告 中澤 高志 (明治大学)

「資本主義の危機としての少子化」

第2 報告 杉山 武志 (兵庫県立大学)

「惑星の都市化と『倫理』資本主義—コミュニティ経済論の視角を交えて—」

第3 報告 遠藤 聡 (横浜国立大学)

「プラットフォーム経済化と地域経済研究の方法」

第4 報告 池島 祥文 (横浜国立大学)

「データサイエンスと地域経済学」

○企画セッション2 9:30~11:30 【Zoom 会場 B】

「現代資本主義と『地域の価値』」

座長 佐無田 光 (金沢大学)

当学会の共同研究プロジェクト「現代資本主義における地域の内発的発展と『地域の価値』」では、これまで、第31回大会企画セッション「認知資本主義と地域経済」(2019年12月7日)、学会誌第38号企画特集「『地域の価値』を考える」(2020年3月)などを通じて、研究成果の中間報告を行ってきた。その後も、内部研究会や西日本支部研究会、あるいは関連学会などの場で議論を深めてきた。とくに経済地理学会第68回大会では、共通論題シンポジウム「価値づけの経済地理学」(2021年5月29日)が開催されている。

本セッションでは、それらを踏まえ、現代資本主義と「地域の価値」についてより理論的に掘り下げた考察を行うことを目的とする。

第1報告 山本 泰三 (大阪産業大学)

「価値づけと利潤のレント化—現代資本主義における価値の問題—」

第2報告 立見 淳哉 (大阪市立大学)

「価値づけと地域—資本主義の変化を踏まえて—」

第3報告 除本 理史 (大阪市立大学)

「『地域の価値』から福島復興を考える」

コメンテーター

長尾 謙吉 (専修大学)、畠中 昌教 (久留米大学)、
横田 宏樹 (静岡大学)

【11月14日(日) 13:00~16:00】

○共通論題シンポジウム 【Zoom 会場 A】

「コロナ危機と地域経済／国際比較の視点から展望する」

コーディネーター 高山 一夫 (京都橘大学)

◇趣旨説明

新型コロナウイルス感染症は、人びとの生命や健康を脅かすとともに、人びとの暮らしが営まれる地

域経済のあり方にも多大の影響を及ぼしています。需要が蒸発したと言われる観光業・飲食業・旅行業などとそれらの関連産業の苦境、またそれらの産業に従事する人々の雇用と所得の喪失は、筆舌に耐えがたい苦しみをもたらしています。地域住民の健康を支える医療機関も、新型コロナ患者への対応に加えて、患者の受診控えによって、経営的な危機に直面しています。経済のグローバル化を推進し、外需やインバウンド消費に依存することで地域経済の振興を図ろうとしてきたこれまでの地域政策もまた、根本的な見直しが迫られています。こうした危機的な状況のもと、人びとのいのちとくらしが、いわゆる惨事便乗型のビジネスと地域政策にからめとられる危険性も否めません。

しかしながら、今回のコロナ禍を機として、医療や介護、保育・教育、さらには小売業や輸送業など、いわゆるエッセンシャルワークの重要性に光が充てられ、その労働条件や労働環境を見直すべきだとの機運が高まっています。地域住民のいのちをまもる医療機関や医療制度の大切さも、改めて人びとの間で共有されてきました。また、グローバル化と外需依存ではなく、地消地産やマイクロツーリズム、自然エネルギーへの志向など、内発的発展を再評価しながら地域経済の再生を展望する傾向も生まれています。

今回のシンポジウムでは、コロナ禍がもたらしたこうした変化について、世界的な動向を踏まえつつ、日本、EU、アメリカという3つの地域における動向を比較し、コロナ危機後の経済社会のあり方を展望したいと思います。このシンポジウムを通じて、参加者の皆さんがこれからの地域経済を再生するためのビジョンや方法、成果と課題について考えを深められることを期待しています。

◇登壇者

- ・シンポジスト
岡田 知弘 (京都橘大学)
松田 亮三 (立命館大学)
高山 一夫 (京都橘大学)
- ・司会
岩佐 和幸 (高知大学)・鈴木 誠 (愛知大学)

◇当日のスケジュール

- 13:00～13:10 開催挨拶・趣旨説明と進行説明
- 13:10～13:50 基調報告及び日本における状況
(岡田報告)
- 13:50～14:20 EUにおける状況(松田報告)
- 14:20～14:50 米国における状況(高山報告)
- 14:50～15:05 休憩
- 15:05～15:50 討論と質疑応答
- 15:50～16:00 討論のまとめと閉会挨拶

事務局からの連絡とお願い

日本地域経済学会では、インターネットの普及以後、Eメールを利用して会員各位に大会や支部会の内容について案内しております。

しかし、Eメール・アドレスの登録ができていないのは会員の7割程度です。

事務局からメール案内を受けていない会員の方につきましては、是非ともメール・アドレスの登録のためにご一報いただければと思います。

以下の事務局のEメール・アドレスまで「メール・アドレス登録希望」という件名で名前とご所属のみ記入して送信いただけないでしょうか。

chiikikeizai60@gmail.com

日本地域経済学会 事務局
北海学園大学 経済学部 (濱田研究室)
〒062-8605 札幌市豊平区旭町4-1-40
電話：011-841-1161 (2736)
Eメール・アドレス：chiikikeizai60@gmail.com
